

2021 | 12月期 第2四半期 決算説明会資料

(2021年1月1日～2021年6月30日)

2021年8月24日

日本フェンオール株式会社

Contents

	頁
1. 事業概要	2
2. 2021年 12月期 第2四半期 決算概要	4
セグメント別実績	8
投資・財務概況・経営指標	16
3. 2021年度 通期連結業績見通し	22
2021年度 配当について	26
4. 中期 3ヶ年経営計画 進捗状況	28

1. 事業概要



熱制御技術をコアとした事業を展開



※消防ポンプ事業は、当期より新たに追加しております。

2. 2021年12月期 第2四半期 決算概要



2021年度 第2四半期の業績サマリー

前期比 売上高 35.8%増 営業利益 18.1%増 増収増益

(単位：百万円)

業績項目	当期実績		前年実績		当期予算	
	実績		実績	前期比	予算	進捗率
■ 受 注	5,833		4,975	17.2%	12,480	46.7%
■ 売 上	6,505		4,789	35.8%	12,298	52.9%
■ 売 上 総 利 益	2,008		1,480	35.7%	3,821	52.6%
■ 販 管 費	1,319		897	47.1%	2,721	48.5%
■ 営 業 利 益	688		583	18.1%	1,100	62.6%
■ 営 業 外 損 益	20		59	△65.4%	28	73.3%
■ 経 常 利 益	709		642	10.4%	1,128	62.9%
■ 当 期 純 利 益	440		414	6.3%	789	55.9%
■ 1株当り純利益(円)	78.04		73.39	6.3%	139.72	—
■ 平均レート(円)	107.74		108.43	△0.6%	105.00	—

※予算は、7/30付の業績予想の修正数値

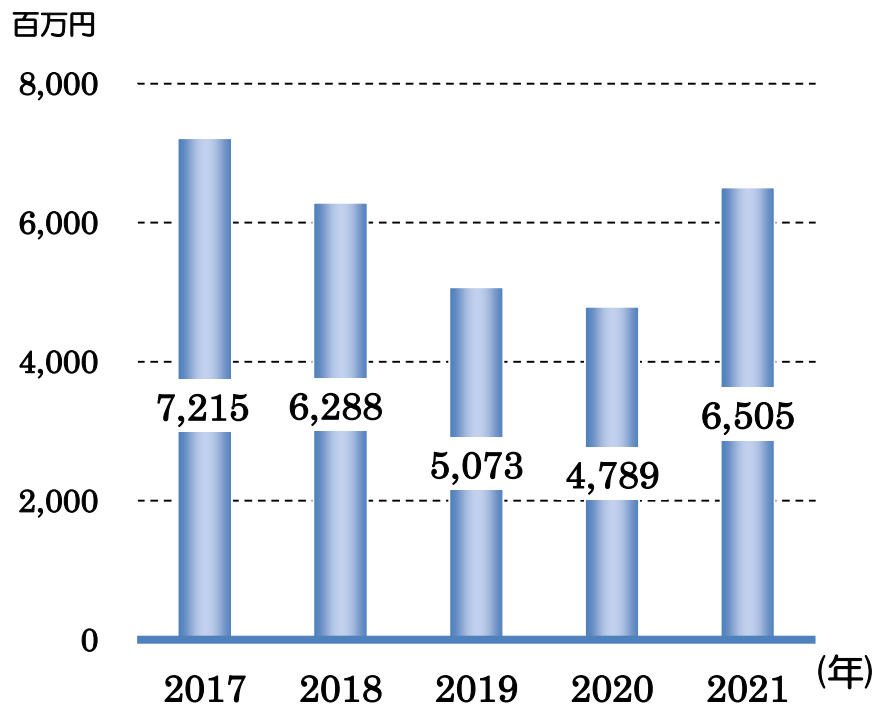


2021年度 第2四半期業績推移

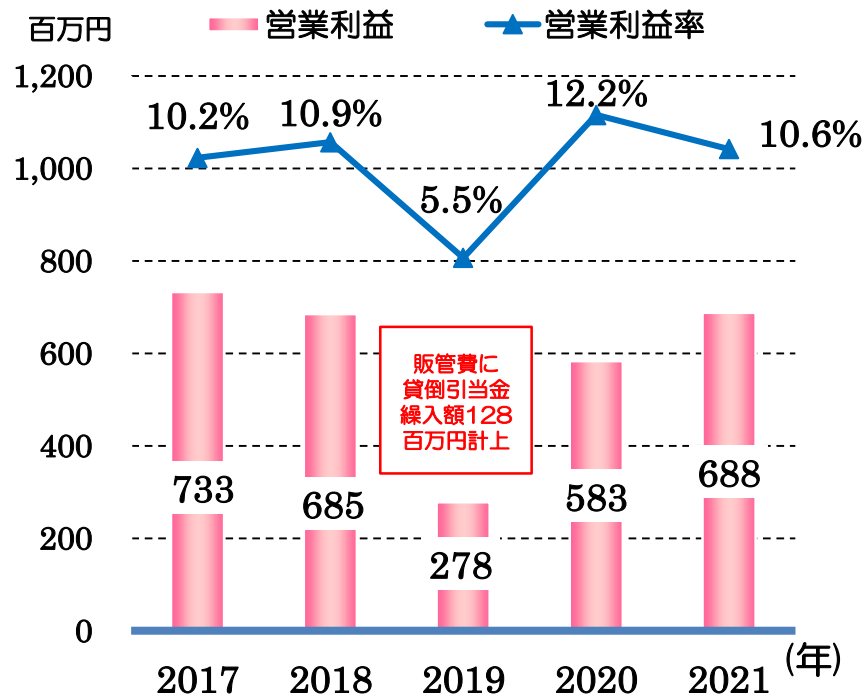
売上高・営業利益：消防ポンプ部門の新設により、減少傾向から回復

営業利益率：当期は、子会社取得費用等により前期比で低下

売上高



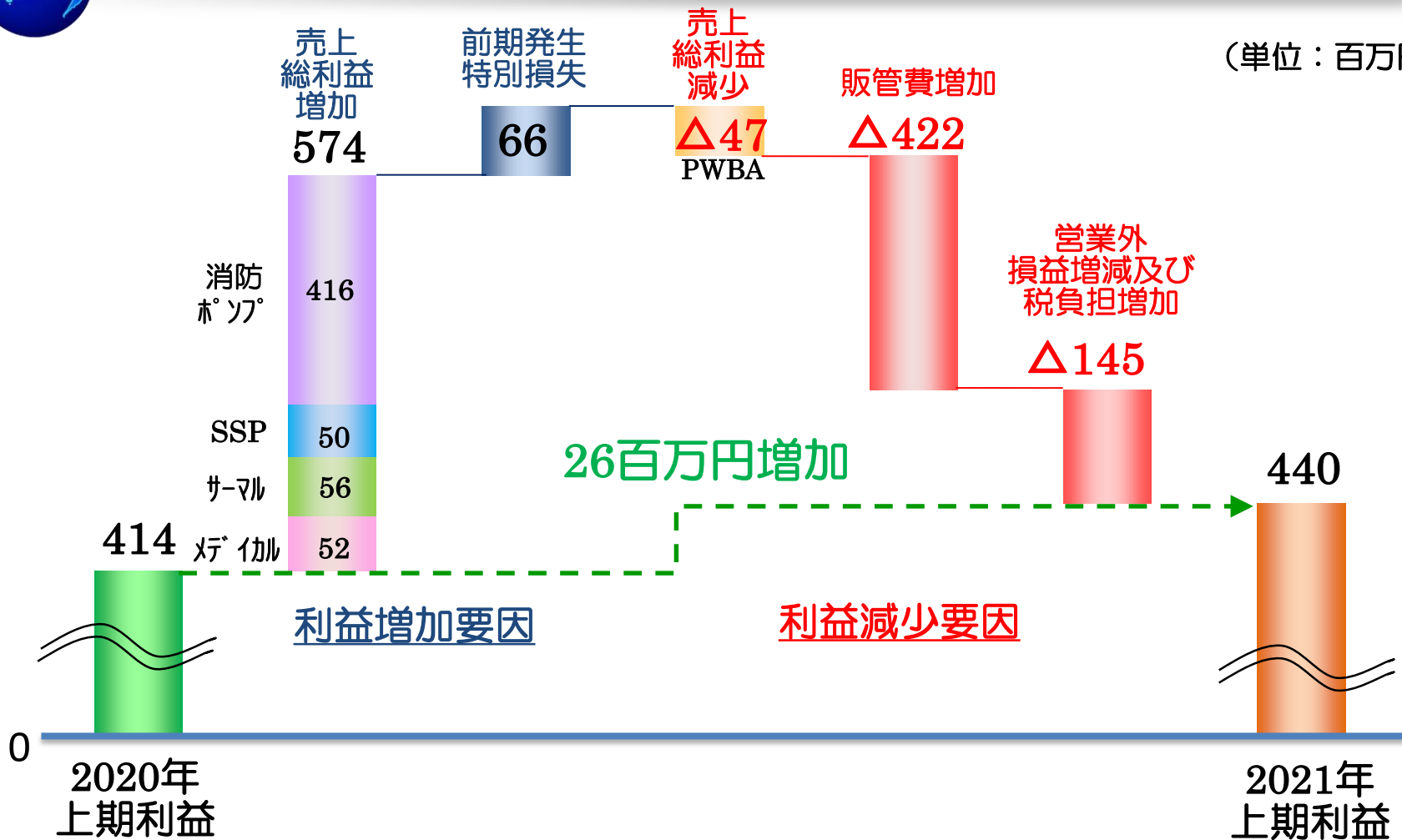
営業利益





前期比 当期純利益増減要因

(単位：百万円)



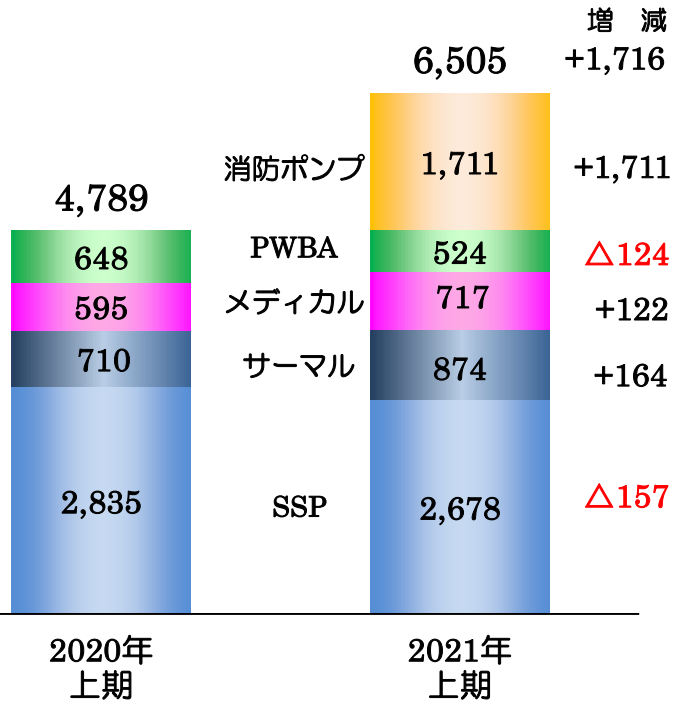
セグメント別実績



セグメント別増減明細

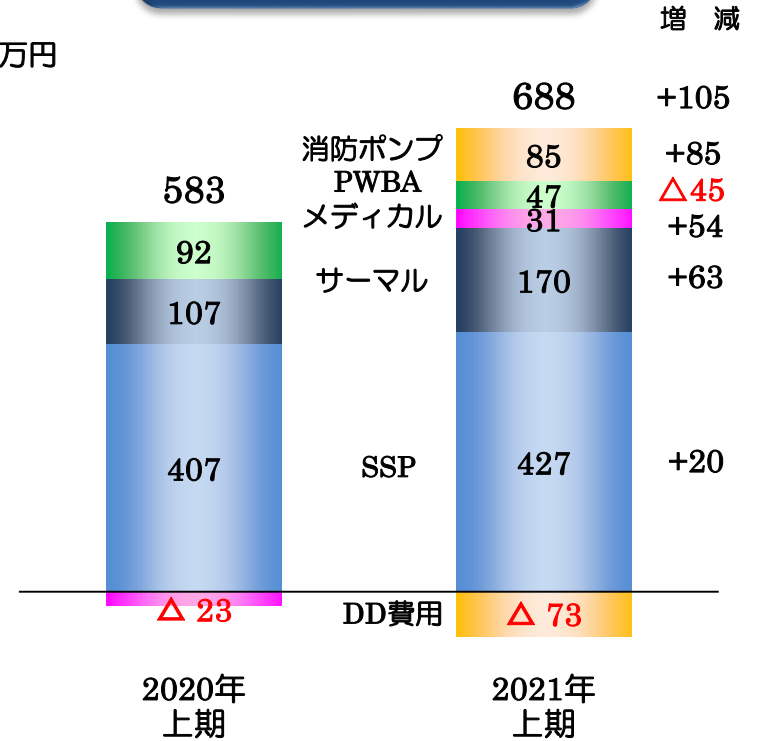
売上高の増減

百万円



営業利益の増減

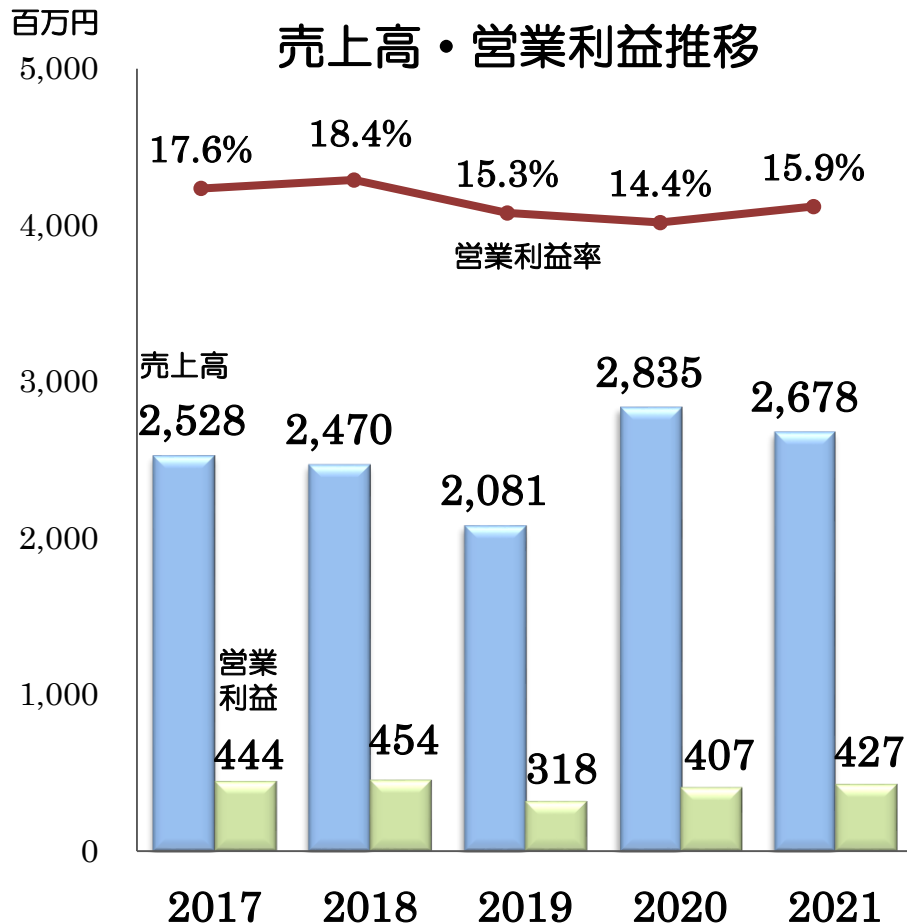
百万円



※全社費用をセグメント別に配賦



セグメント別売上高・営業利益 SSP



【減収・増益】

・売上高	前期比	△5.5%
・営業利益	前期比	5.0%

1. 前期比較

(1) 売上高 (157百万円減少)

電力基幹産業向けの警報・消火設備を中心に順調に推移したものの、前期、特定顧客向け大型特殊消火設備工事が完成したこと等により大幅に増加したため、前期比若干減少

(2) 営業利益 (20百万円増加)

業務の効率化、原価低減活動等の推進により売上総利益率が改善傾向となり、営業利益は増加

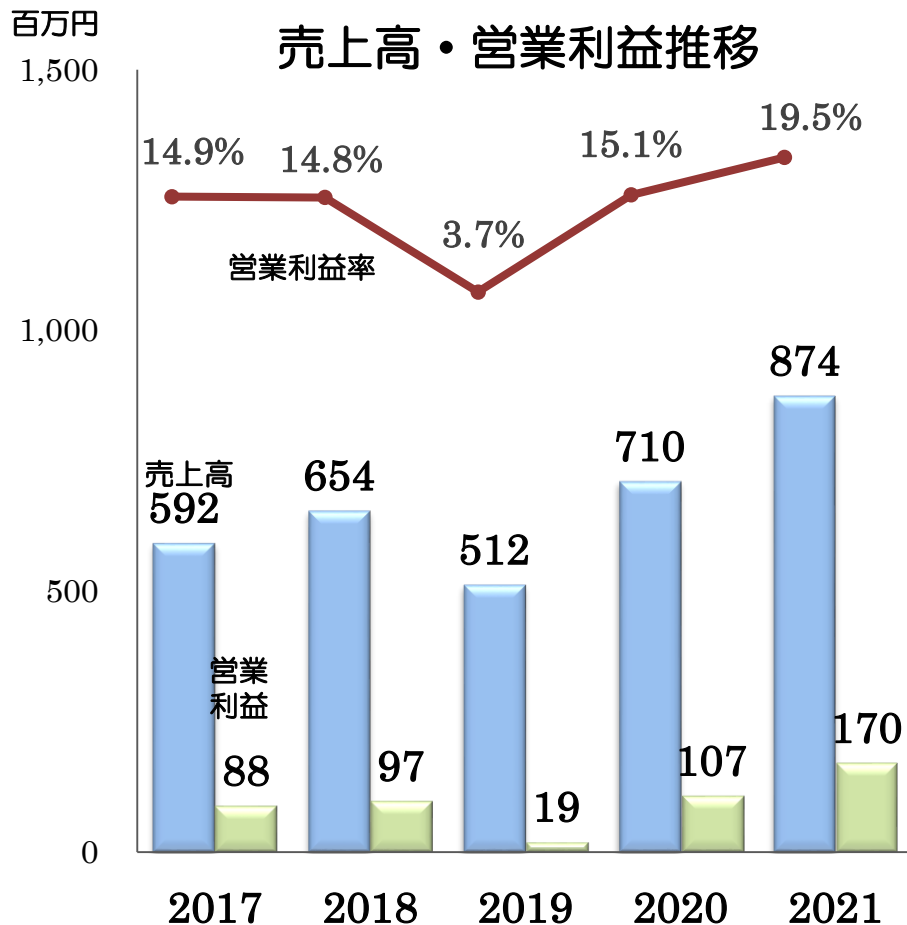
2. 計画進捗率 (売上高52.5%)

受注、売上ともに堅調に推移し、通期においても、ほぼ計画通りを見込んでいます。

懸念材料としては、新型コロナウイルス感染症の長期化及び電子部品の調達リードタイムの長期化等による製品出荷、工事完成遅延等



セグメント別売上高・営業利益 サーマル



【増収・増益】

・売上高	前期比	23.1%
・営業利益	前期比	58.6%

1. 前期比較

(1) 売上高 (164百万円増加)

① 半導体製造装置用熱板 (93百万円増加)

半導体市場における需要増を背景とした受注増加により売上高27.3%増加

② センサー (36百万円増加)

半導体市場における需要増を背景とした受注増加により売上高19.7%増加

(2) 営業利益 (63百万円増加)

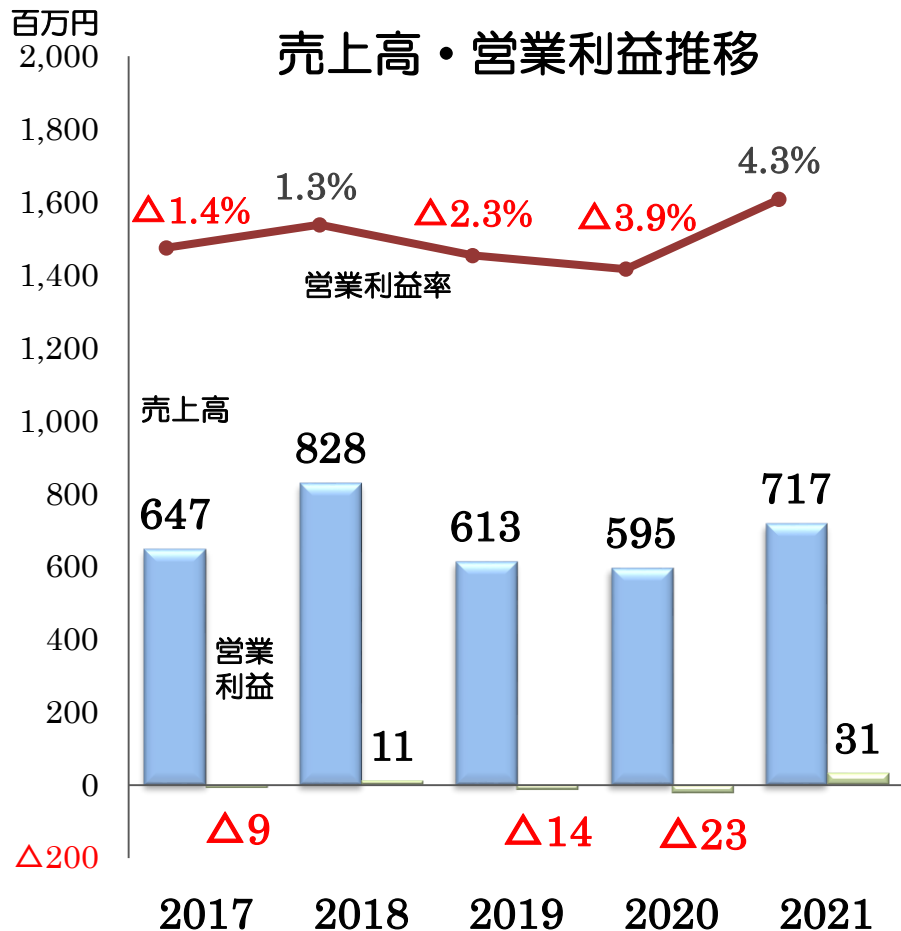
熱板及びセンサーの受注が増加し、売上及び売上総利益が増加。それに伴い営業利益率も上昇

2. 計画進捗率 (売上高48.8%)

熱板及びセンサー等、主力製品の受注が引き続き好調に推移すると見込んでいるものの、SSP同様、電子部品の調達リードタイムの長期化等の影響が懸念材料として残る状況



セグメント別売上高・営業利益 メディカル



【増収・増益】

・売上高	前期比	20.4%
・営業利益	前期比	黒字転換

1. 前期比較

(1) 売上高 (122百万円増加)

海外市場向け人工腎臓透析装置は、出荷台数がほぼ計画通り推移し、また国内市場向け人工腎臓透析装置の関連製品も出荷が徐々に増加したことにより売上高は増加

(2) 営業利益 (54百万円増加)

売上高増加及び客先との協業による原価改善活動による売上総利益増加にともない、営業利益は黒字転換

2. 計画進捗率 (売上高57.5%)

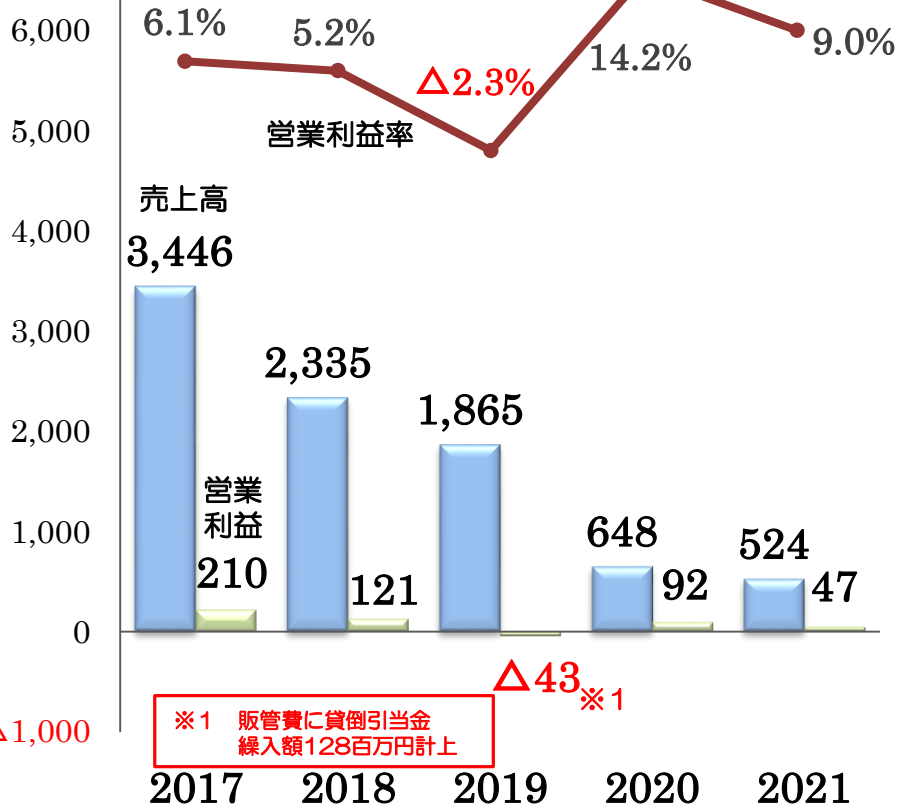
計画通りの進捗であり、今後の海外市場向け人工腎臓透析装置及び関連製品の出荷も概ね計画通り推移するものと予想



セグメント別売上高・営業利益 PWBA

百万円
7,000

売上高・営業利益推移



【減収・減益】

・売上高	前期比	△19.2%
・営業利益	前期比	△48.7%

1. 前期比較

(1) 売上高 (124百万円減少)

一部の産業用市場への出荷は増加したものの、主力の事務機器市場への出荷が伸び悩み、売上高減少

(2) 営業利益 (45百万円減少)

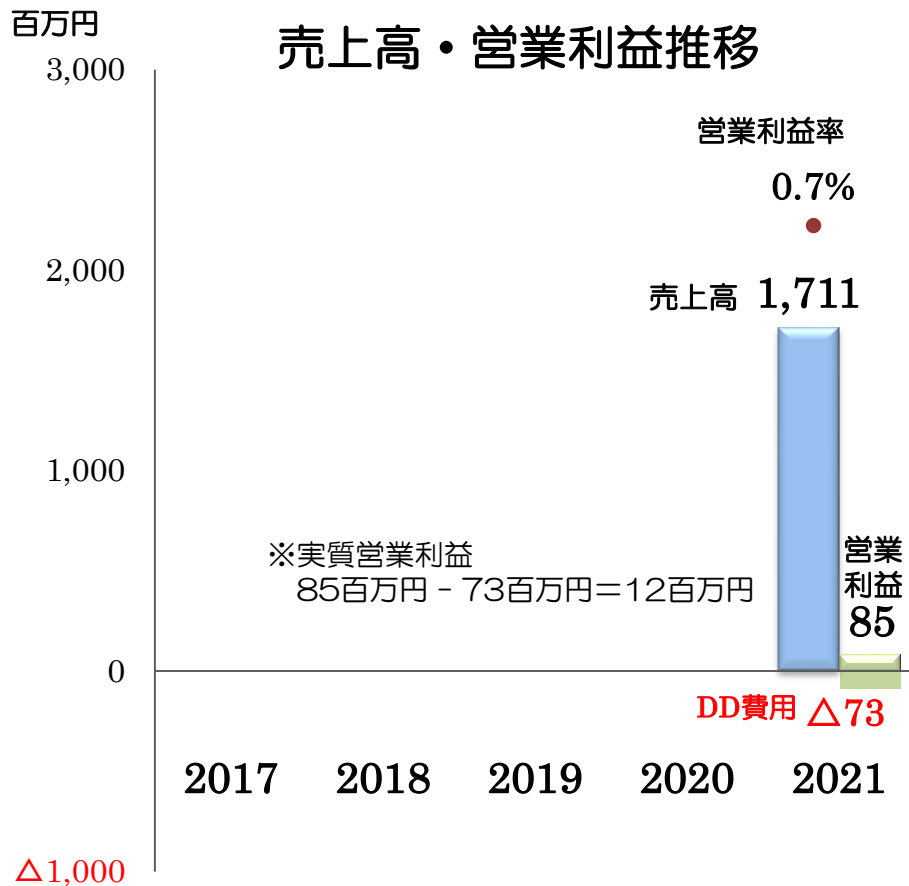
売上高減少による営業利益の減少に加え、前期、高利益率製品の特需があったことも影響し、営業利益は大幅な減少

2. 計画進捗率 (売上高46.0%)

事務機器市場の回復の遅れにより、引き続き厳しい受注環境が続くものと予想。加えて、電子部品の調達リードタイムの長期化、価格の高騰等による生産への影響が不透明感を増す状況



セグメント別売上高・営業利益 消防ポンプ



・売上高	1,711百万円
・営業利益	12百万円
・営業利益率	0.7%

1. 当期の状況

(1) 売上高

国内市場向けは、消防ポンプ・消防車の販売が堅調に推移。海外市場向けは、タイ・台湾・韓国向け販売が好調を維持

(2) 営業利益

消防ポンプ事業の営業利益は85百万円であったものの、株式取得費用等を控除した結果、12百万円となった

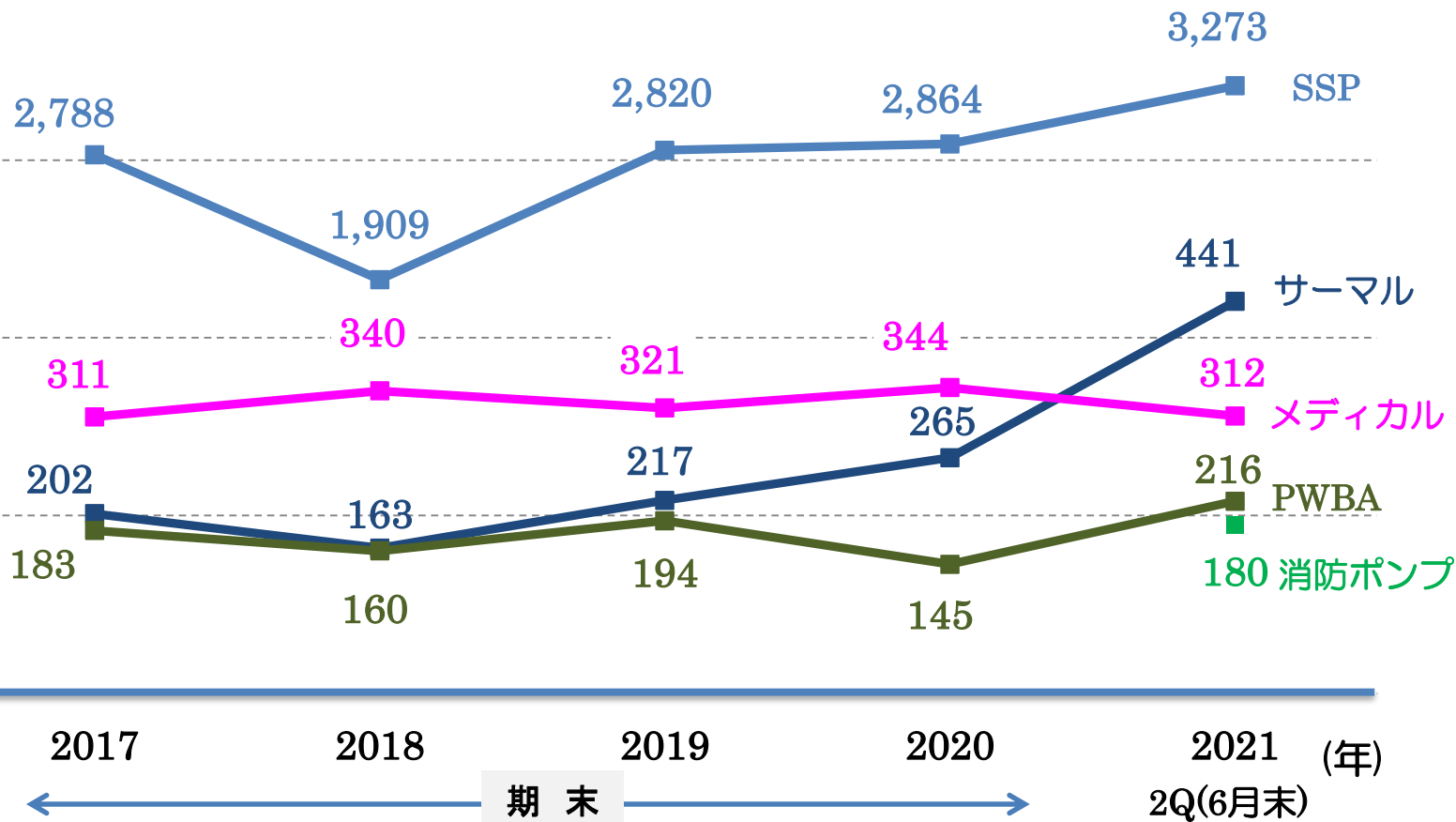
2. 計画進捗率（売上高56.7%）

概ね堅調に推移しているが、中国市場における入札動向が依然として不透明な状況が続いている。そのため、海外の主力市場である中国に対しては、在外連結子会社との連携による販売体制の強化を図る



連結部門別受注残高推移

(単位：百万円)



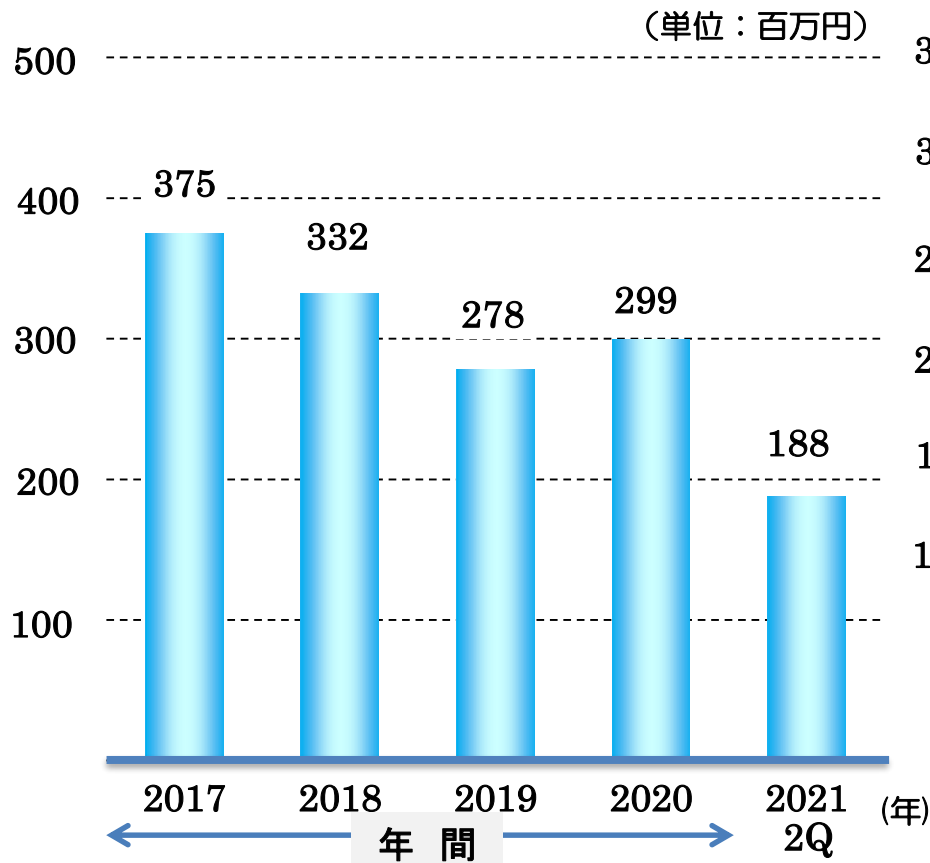
← 期 末 →

投資・財務概況・経営指標

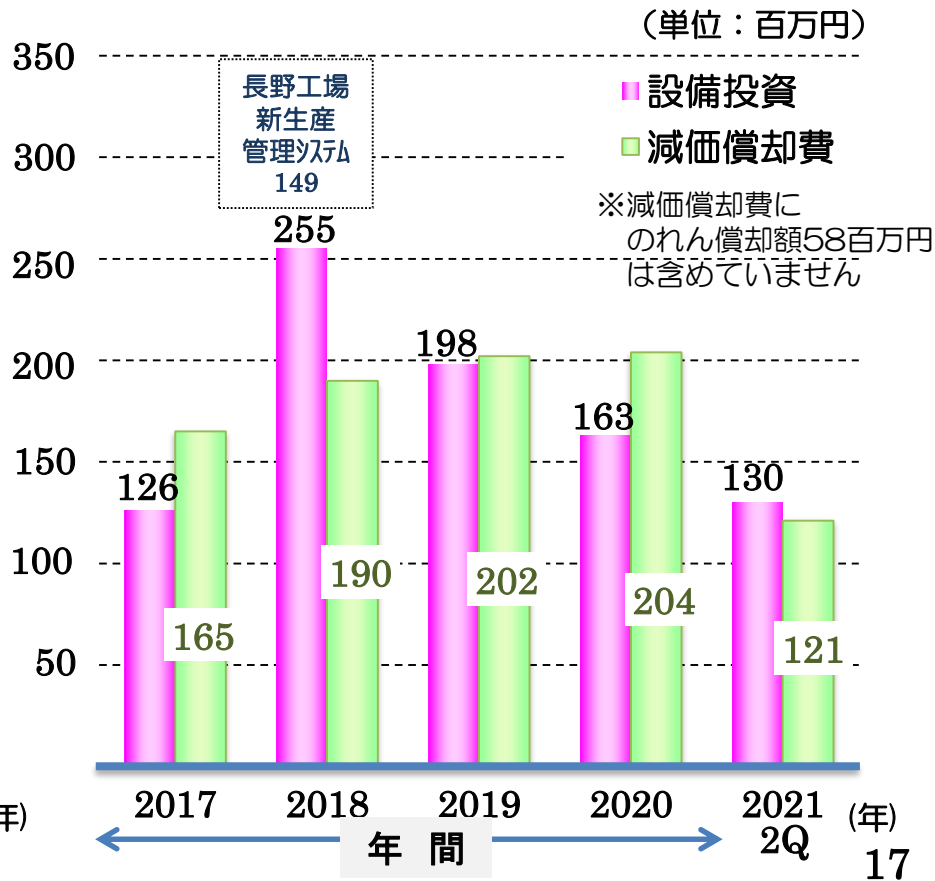


投資概況

研究開発費



設備投資・減価償却費

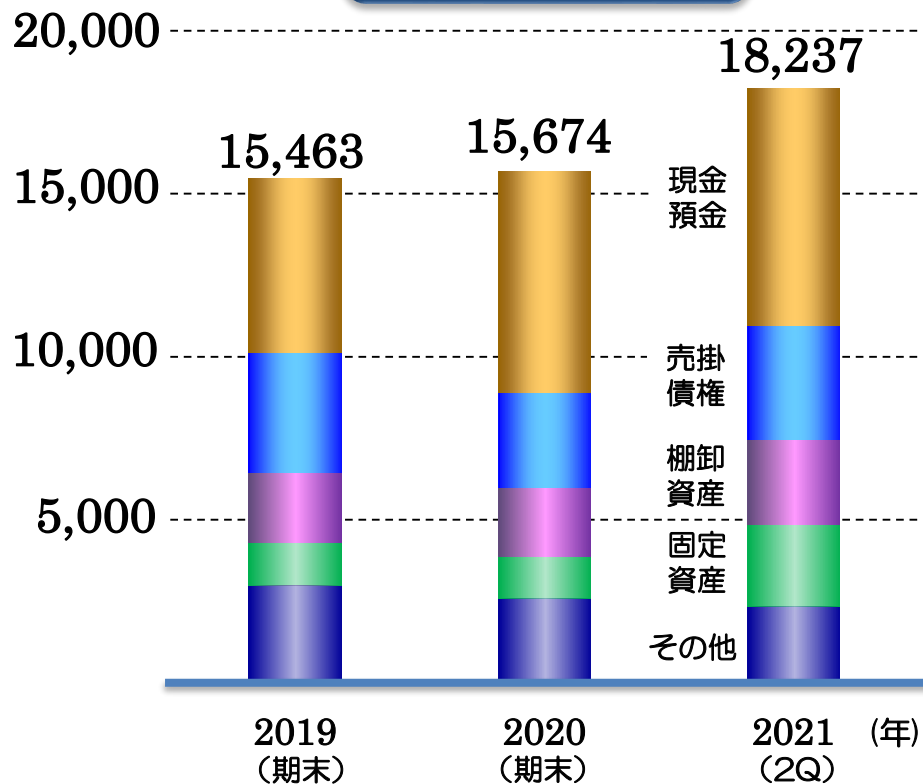




連結貸借対照表(資産の部)

子会社資産増加、のれんの発生により16.4%増加

資産推移



増減内容

(単位：百万円)

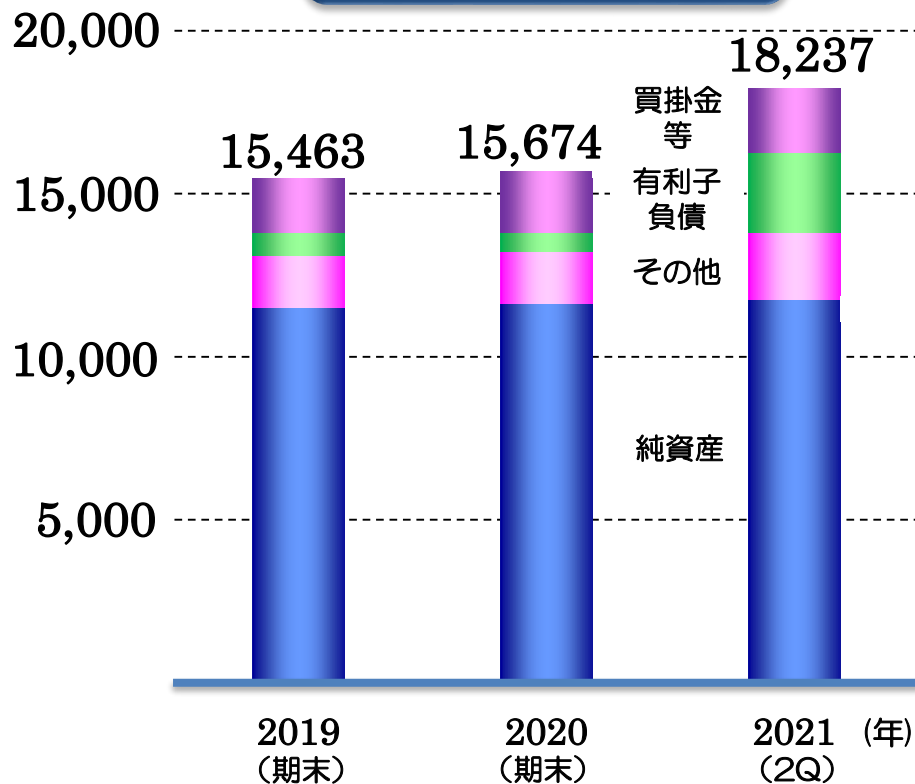
項目	当期	前年度末	増減率
現金預金	7,265	6,769	7.3%
売掛債権	3,509	2,906	20.8%
棚卸資産	2,614	2,118	23.4%
固定資産	2,513	1,280	96.3%
その他	2,333	2,599	△10.2%
合計	18,237	15,674	16.4%



連結貸借対照表(負債・純資産の部)

子会社取得費用による借入金増加等により負債大幅増加

負債・純資産推移



増減内容

(単位：百万円)

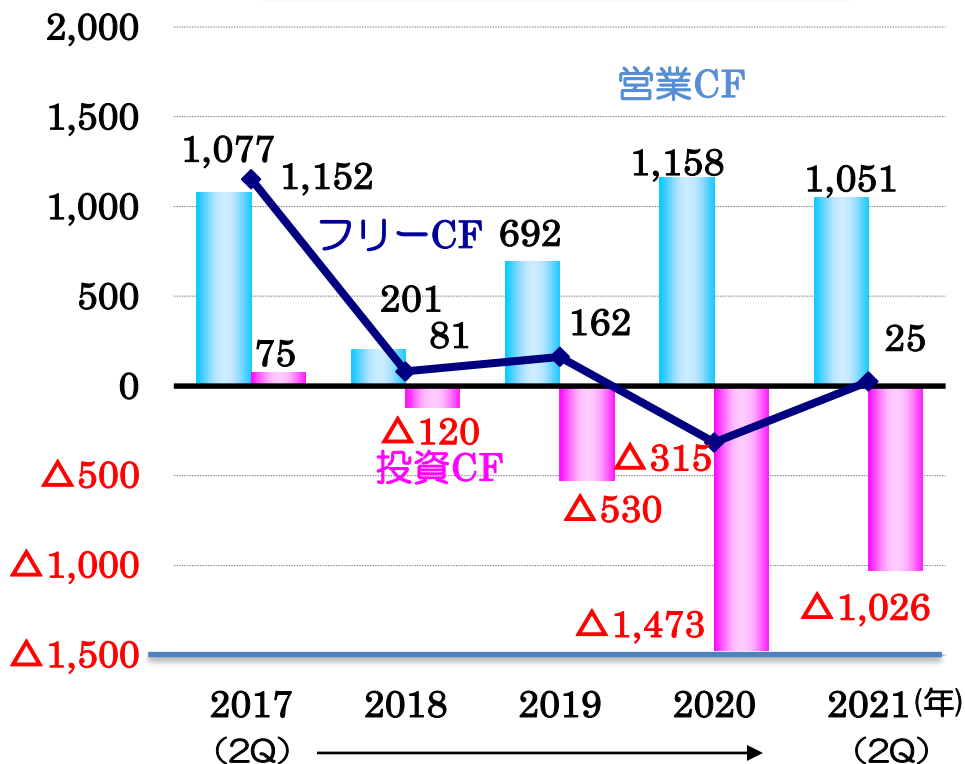
項目	当期	前年度末	増減率
買掛金等	1,964	1,882	4.4%
有利子負債	2,478	568	336.3%
その他	2,048	1,600	28.0%
純資産	11,746	11,623	1.1%
合計	18,237	15,674	16.4%



キャッシュ・フロー計算書

子会社取得費用は借入金と営業CFおよび債券解約により拠出

キャッシュ・フロー推移



増減内容

(単位：百万円)

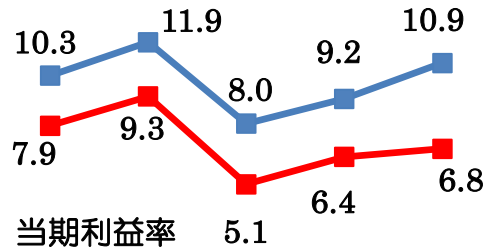
項目	当期	前期	増減率
営業CF	1,051	1,158	△9.2%
投資CF	△1,026	△1,473	△30.3%
財務CF	682	△293	—
換算差額	35	△21	—
合計	742	△629	—
期首残高	5,527	5,231	5.7%
期末残高	6,270	4,602	36.2%
フリーCF	25	△315	—



経営指標

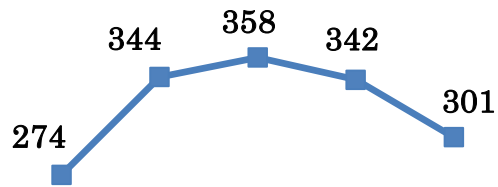
売上高利益率 (%)

経常利益率



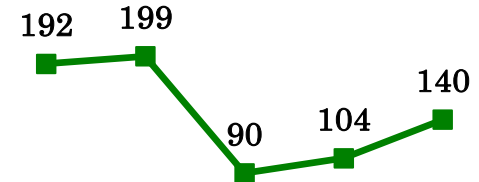
(期末) → (2Q)
2017 2018 2019 2020 2021 (年)

流動比率 (%)



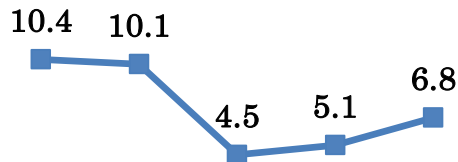
(期末) → (2Q)
2017 2018 2019 2020 2021 (年)

1株当り純利益 (円)



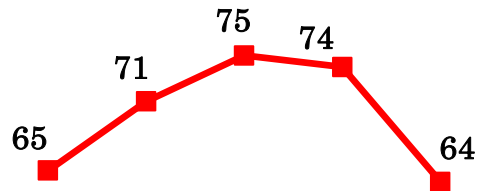
(期末) → (期末予想)
2017 2018 2019 2020 2021 (年)

自己資本利益率 (%)



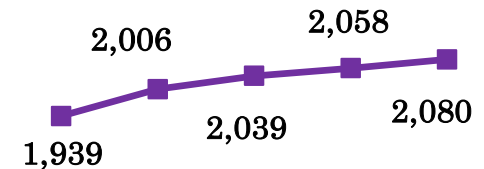
(期末) → (期末予想)
2017 2018 2019 2020 2021 (年)

自己資本比率 (%)



(期末) → (2Q)
2017 2018 2019 2020 2021 (年)

1株当り純資産 (円)



(期末) → (2Q)
2017 2018 2019 2020 2021 (年)

3. 2021年度 通期連結業績見通し



2021年12月期 連結計画サマリー（増収増益）

「株式会社シバウラ防災製作所」の子会社化やサーマルの好調を背景に、増収増益を見込む

（単位：百万円）

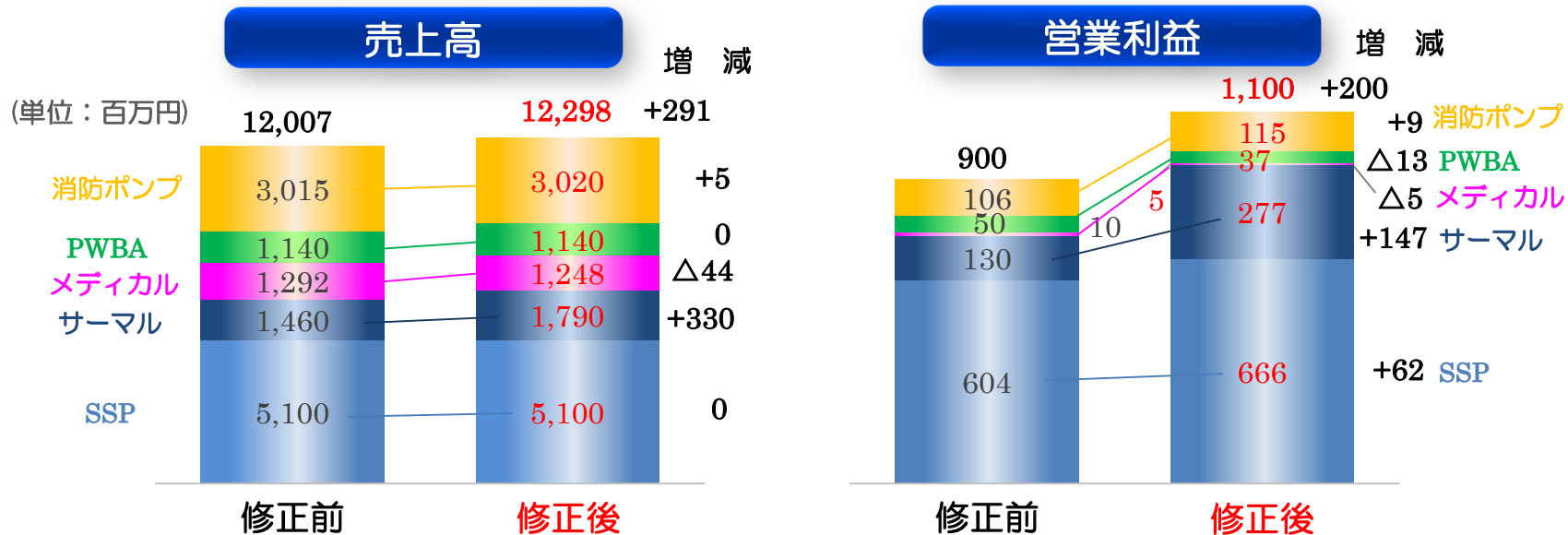
項目	計画項目			前期比	
	2021 （修正前）	予 想 （修正後）	増減率	2020 実 績	増減率
■ 売 上	12,007	12,298	2.4%	9,125	34.8%
■ 売上総利益	3,757	3,821	1.7%	2,694	41.8%
■ 販 管 費	2,857	2,721	△4.8%	1,928	41.1%
■ 営業利益	900	1,100	22.2%	765	43.6%
■ 営業外損益	6	28	366.7%	72	△61.3%
■ 経常利益	906	1,128	24.5%	838	34.6%
■ 当期純利益	618	789	27.7%	585	34.8%

※想定為替レート：1USドル=105円



2021年12月期通期連結業績予想の修正

7月30日付で通期業績予想を下記の通り修正しております。



修正理由

- 売上高（291百万円増加）
 - ・サーマル部門の熱板及びセンサーが好調に推移
- 営業利益（200百万円増加）
 - ・SSP部門の原価低減活動等により売上総利益率が改善
 - ・サーマル部門の売上増加による売上総利益の増加
 - ・コロナ禍により販売費及び一般管理費が計画を下回る見込み



業績の推移（実績・予想）

(利益：百万円)



【増収・増益 予想】

- 売上高 前期比 34.8%
- 営業利益 前期比 43.6%

- SSPは、売上高は前期並みであるが、利益率改善により増益予想
- サ-マルは、半導体製造装置用のセンサ、熱板を中心に大幅増収増益予想
- ディカは、透析装置の出荷数量増加と原価改善により増収増益予想
- PWBAは、売上は前期並みを見込むものの、利益率低下により減益予想
- 消防ポンプ部門は、今期の計画達成に向け官公庁向け入札獲得を目指す

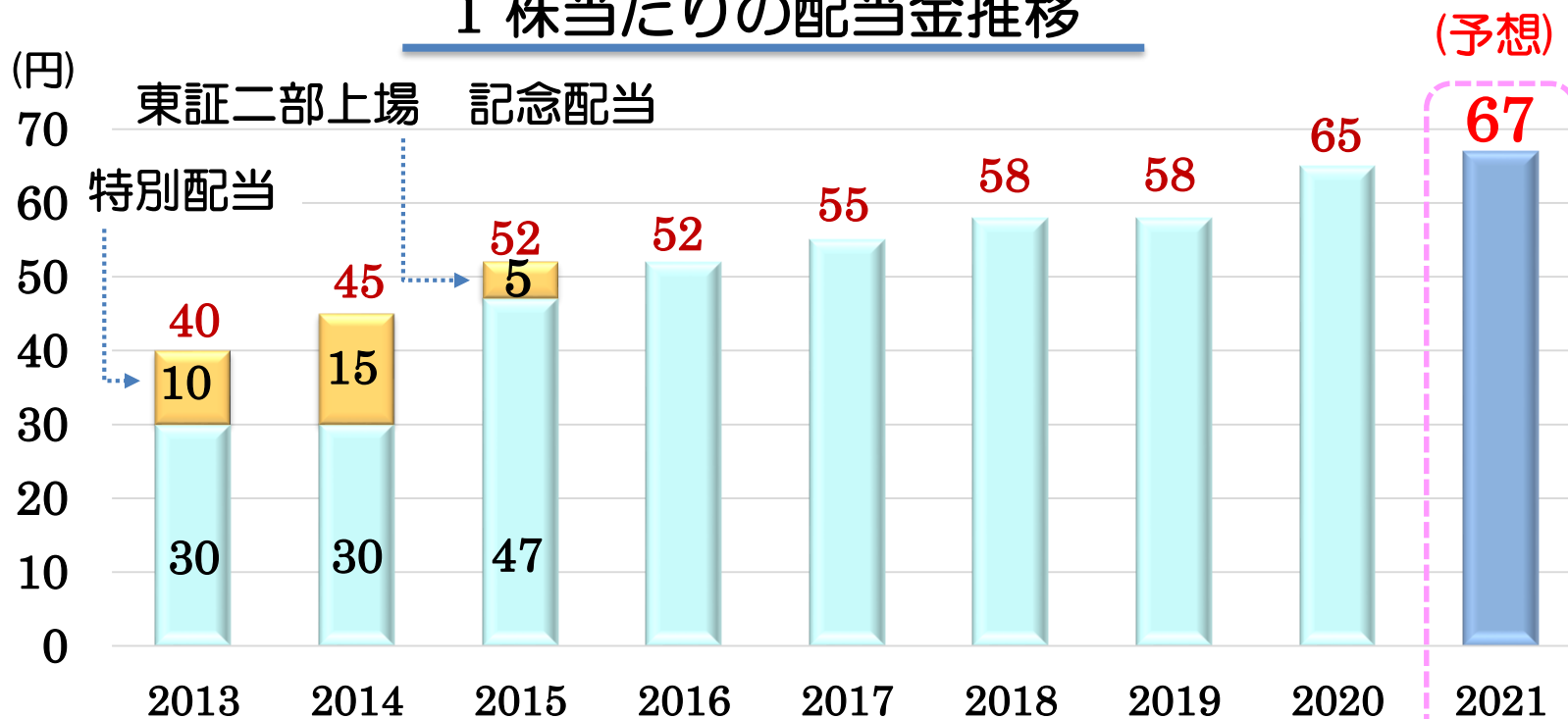
以上により、大幅な増収増益予想

2021年度 配当について



配当金の推移

1株当たりの配当金推移



当期純利益 (百万円)	874	1,009	1,158	1,073	1,128	1,169	526	585	789
配当性向(%)	26.9	26.2	26.4	28.5	28.7	29.2	64.6	62.7	48.0

4. 中期3ヶ年経営計画 進捗状況

経営基盤強化を中心に中期経営計画を策定

経 営 理 念

1. 安全で高品質な製品の提供を通して、社会に貢献できるメーカーを目指す
2. 高い技術力で顧客に信頼される企業を目指す
3. 取引先・株主・社員の満足度を高めることを目指す
4. 法令を遵守し倫理性の高い企業活動を通して、透明性のある企業を目指す

長 期 ビジョン

1. 安心を創造し人と社会をつなぐ企業を目指す

重 点 方 針

1. 開発組織の陣容拡大と環境整備
2. 社員が意欲をもって業務を遂行できる人事制度・組織の構築
3. オンリーワン製品の開発に注力し高付加価値を目指す
4. 外部企業との提携、海外市場進出等による事業拡大への挑戦
5. ガバナンス、コンプライアンス対応強化

1. 開発組織の陣容拡大と環境整備

- ・開発力強化のため技術部に7名採用
- ・グループ全体のシナジー創出を目的とした設備投資計画を推進中

2. 社員が意欲をもって業務を遂行できる人事制度・組織の構築

- ・新人事制度（2021年4月より開始）、教育制度強化（2021年6月より開始）
- ・従業員を対象に譲渡制限付株式制度を導入（2021年導入予定）

3. オンリーワン製品の開発に注力し高付加価値を目指す

- ・新製品開発室の新設によるコア技術を基礎としたオンリーワン製品の開発を推進中

4. 外部企業との提携、海外市場進出等による事業拡大への挑戦

- ・シバウラ防災製作所を買収（2021年1月5日付） - 事業セグメントを追加（消防ポンプ部門）
- ・消防ポンプ部門と海外子会社が連携して海外市場拡販への取組みを開始
- ・SSP事業の他社との提携について検討中

5. ガバナンス、コンプライアンス対応強化

- ・シバウラ防災製作所のPMI(経営統合作業) を推進中

主力事業は、収益性が向上している。メディカル、PWBAは引き続き構造改革を推進

成長性	中期目標平均 営業利益率	長期目標平均 営業利益率	2021年見通し 営業利益率	中長期的な取組み
SSP	11.7%	13.0%	13.1%	中核事業として強化 <ul style="list-style-type: none"> ・営業陣容強化による受注機会拡張 ・他社と提携による施工体制強化
消防ポンプ	7.5%	10.0%	※ 6.2%	次期中核事業へ成長 <ul style="list-style-type: none"> ・海外市場の販売体制を強化 ・原価低減活動の推進
サーマル	8.9%	10.5%	15.5%	準中核事業を目指す <ul style="list-style-type: none"> ・生産体制の増強 ・半導体装置メーカーへの販売強化
メディカル	1.0%	3.0%	0.4%	事業の構造改革 <ul style="list-style-type: none"> ・主要顧客との連携による収益改善 ・透析装置以外の製品販売の強化
PWBA	3.5%	3.5%	3.2%	事業の構造改革 <ul style="list-style-type: none"> ・生産性の向上による採算改善 ・他事業との連携

※ 2021年消防ポンプ部門の営業利益率見通しは、当期に発生したM&Aによる子会社取得費用を特殊要因のため除いております。

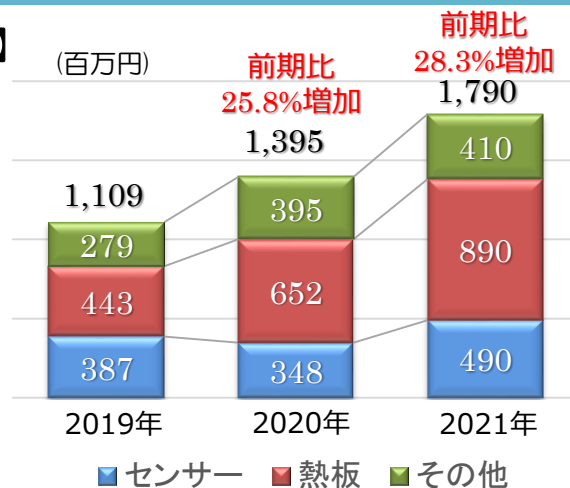
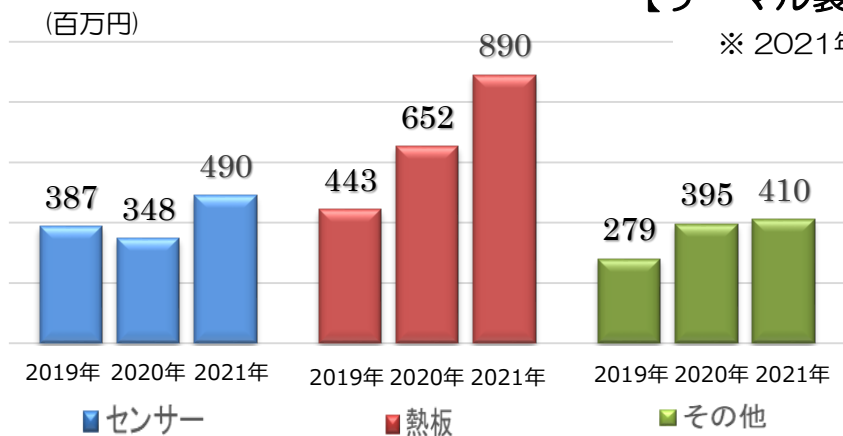
半導体製造装置の世界販売額は、2021年度は前年比で約34%増加し953億ドル、2022年度は1,000億ドルを突破して過去最高を更新すると予測されている。

(情報：SEMIジャパン)

次世代通信規格やIoT、AI(人工知能)など、半導体デバイスメーカーによる長期的な成長に向けた設備投資も加速していることから、半導体製造装置市場の拡大も進み、当社主力製品である熱板及びセンサーの売上が伸長。

【サーマル製品別売上】

※ 2021年は予測



活況な半導体製造装置市場へ製品の安定供給を目指す。

【生産3直稼働体制の整備】（2021年11月）

○ 設備投資（投資額：約 40百万円）

プレート切削加工機 2台 → 3台（1台追加）

熱板組み立てライン 1ライン → 2ライン（1ライン増設）

○ 人材採用（人件費：約 29百万円／年）

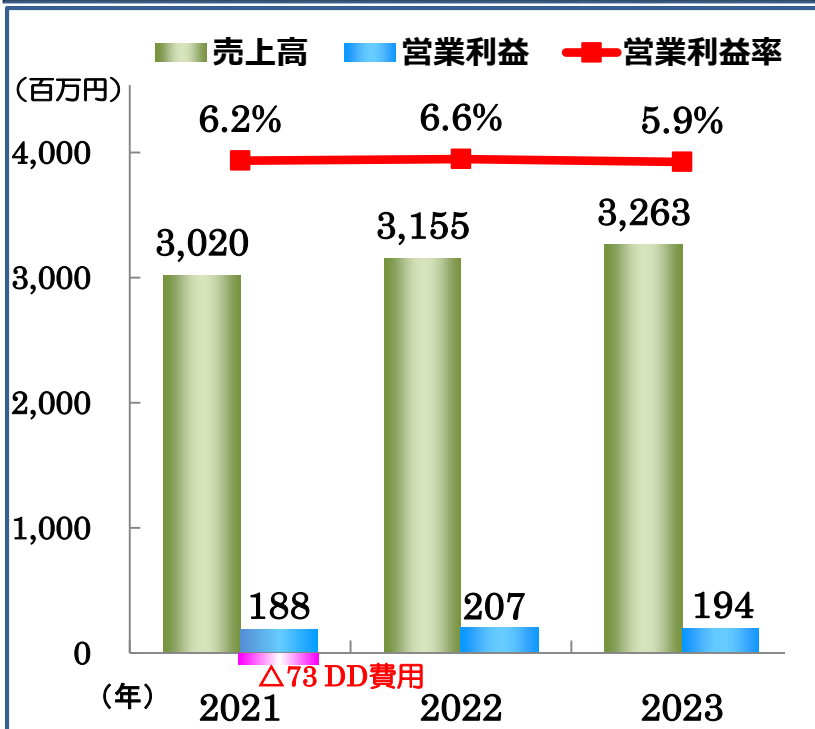
加工オペレーター、組み立て作業員

現状の2稼働から3稼働に増強することで生産能力を約 1.5倍に増強

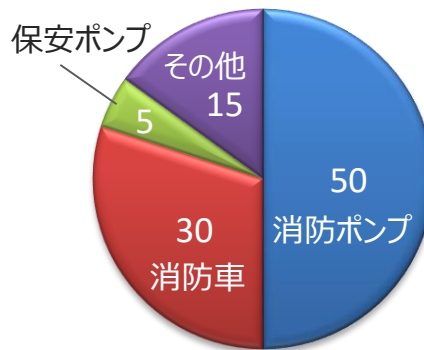


中長期的にSSP事業と並ぶ収益の柱

中期経営計画



製品売上比率(%)



主な顧客

- ・消防ポンプ
官公庁、市町村役場、消防団
- ・消防車
官公庁、市町村役場、消防団
- ・保安ポンプ
LPガス充填所、民間事業所

国内・海外売上高比率(%)



主な海外売上国

- ・中国
- ・インドネシア
- ・ベトナム
- ・タイ
- ・韓国
- ・他、東南アジア地域

※2021年は予想です。又、2021年営業利益率にはDD費用を含めていません。

消防ポンプ事業の主な取組み

■ 販 売

- ・全国100余店舗との連携による市町村入札対応の強化と総務省直納販売の強化
- ・海外子会社との協力体制の確立と海外売上の増強
- ・大型保安ポンプの文化財向けなど需要掘り起こし
- ・特殊車両の販売推進、水害対策製品の提案

■ 開 発

- ・新機種（空冷消防ポンプ、排水ポンプ）の投入。第3四半期の予定
- ・海外規格に適合した製品開発
- ・優位性のある製品開発、人員補強等 開発体制の構築

■ 生 産

- ・生産の平準化とフレキシブルな生産体制の確立
- ・一部業務のIT化による効率化推進
- ・海外部品調達によるコストダウンの検討
- ・中間管理職の育成と多能工化の推進



2021年見通し 営業利益1,100百万円で計画を上方修正

<単位：百万円>

	ローリングプラン2021							
	2017年 実績	2018年 実績	2019年 実績	2020年 実績	2021年 見通し	2021年 計画	2022年 計画	2023年 計画
売上高	14,307	12,542	10,385	9,125	12,298	12,007	12,468	14,093
営業利益	1,403	1,424	716	765	1,100	900	1,000	1,156
営業利益率	9.8%	11.4%	6.9%	8.4%	8.9%	7.5%	8.0%	8.2%
経常利益	1,476	1,497	828	838	1,128	906	1,010	1,166
当期純利益	1,128	1,169	526	585	789	618	707	816
ROE	10.4%	10.1%	4.5%	5.1%	6.8%	5.3%	5.9%	6.6%
EBITDA	1,569	1,615	920	971	1,480	1,308	1,414	1,583
EBITDAマージン	11.0%	12.9%	8.9%	10.6%	12.0%	10.9%	11.3%	11.3%

※ EBITDA：連結営業利益 + 連結キャッシュフロー計算書に記載の減価償却費及びのれん償却費

＜単位：百万円＞	売上高	営業利益
2021年度予測	12,298	1,100
今後の主な取組		
① 海外販売	600	30
<ul style="list-style-type: none"> ・主に東南アジア圏の代理店強化と新規販売網構築 ・海外統括部門を設置し体制強化 		
② 原価低減	—	70
<ul style="list-style-type: none"> ・海外部品調達及び海外生産の推進 ・事業改革による生産効率の向上 		
③ SSP事業における他社との提携	1,150	130
<ul style="list-style-type: none"> ・ガス消火設備の施工及びメンテナンスの拡充 		
④ 各事業における主な取組み	1,700	170
<ul style="list-style-type: none"> ・SSP：防災周辺機器の開発と販売強化 ・サーマル：温度センサー機器の開発と販売強化 ・メディカル：医療機器の設計・開発企業との提携 ・PWBA：収益性の高い事業モデルへのシフト ・消防ポンプ：災害用防災機器の開発と販売強化 		
TOTAL	3,450	400
2025年度目標	15,748	1,500

ご清聴ありがとうございました。

2021年8月24日

日本フェンオール株式会社

■ 注意事項

本資料に記載されている内容は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が作成したものでありますが、特に見通し情報等につきましては、市場環境、為替レート等々様々なリスクや不確実性を内包しておりますので、当社の予測とは異なる可能性があります。

■ お問い合わせ先

日本フェンオール株式会社

取締役 管理統括部長 田原 康治

E-mail : yasuharu.tahara@fenwal.co.jp

住 所 : 〒102-0072

東京都千代田区飯田橋一丁目5番10号

電 話 : 03-3237-3561